

# 麻生多摩美の森だより

麻生区市民健康の森 —麻生鳥のさえずり公園—

第24号 2009年3月31日発行 発行：麻生多摩美の森の会

発行責任者；勝田 政吾 編集者；木村 信夫

## 麻生多摩美の森に思うこと・・・(財)川崎市公園緑地協会 公園緑地部長 萩原 哲

川崎市の緑地事業にかかわって20数年が経過しましたが、ここ麻生区市民健康の森周辺とはその当時からのつきあいです。

昭和63年に市の自然環境課に配属され、小沢城址緑地の用地買収で現地の山に入ったとき、孟宗竹に侵食されアズマネザサで藪化されて疲弊している雑木林を見て、思わず怒りにも似た悲しい気持ちになったことが昨日のように思い出されます。それに比べると、多摩美の森はまだ手入れの痕跡が残っていて、少し救われた気持ちにもなりました。そして地権者の協力を得て、新規事業の「ふれあいの森」第1号として指定し、整備することができました。

日本タンポポ園西側の土地の開発計画が持ち上がったころ、その斜面から多摩緑地保全地区を背景に眺める「多摩美ふれあいの森」のヤマザクラや多摩美公園で遊ぶ子どもたち・・・この風景が好きで、母を連れてお花見をしたことが思い出として残っています。

一方、学校建設用地として川崎市が用地買収し、計画中断により低未利用地になっていた「市民健康の森」の土地は、長い間放置されたことによりアズマネザサが密生し、極めて貧弱な植生状況でした。この場所をその後自分が整備するなどとは思っていただけに、「市民健康の森」事業で担当したときは、驚きとともに何か不思議な縁を感じました。

また、多摩緑地保全地区は、3番目の緑地保全地区として指定するため周辺の地権者に日参したこともありました。当初計画のうち東側半分は、諸般の事情で指定を断念しましたが、今はそのとき諦めた場所も緑地保全地区になったことを知って、当時の努力が無駄ではなかったことに喜びを感じています。

いま思えば、麻生区市民健康の森周辺の緑地は、川崎市における緑地保全のための行政手法の、さながら実験場であったといえます。○法律による緑地保全地区、都市公園、条例による緑地協定地。

○土地所得手段として、直接買収、管理換え、開発による提供、土地交換、借地。

○事業手法として、ふれあいの森事業、市民健康の森事業・・・というように、次々と、あらゆる手段・手法を駆使して、やっとの思いでこの場所の緑を残し、また成果を他の地区に適用してきたことが分かります。

これからは、この残された緑を適切に管理し、次世代につなげていくことが大切です。身近な緑に市民が積極的にかかわりを持ち、行政と一体となって行う管理活動が持続し発展することを願っております。

(編集部より)川崎市緑政部から公園緑地協会と長年にわたり緑の保全・育成に尽力された萩原哲会員が3月定年退職を迎えられ、麻生多摩美の森と多摩美ふれあいの森にハンカチの木を寄贈・記念植樹をしていただきました。今後のご活躍・ご健康をお祈りします。

## ■ 二つのフォーラムの報告

### ◆2009 川崎市市民健康の森フォーラム

in高津 中谷一郎  
高津区役所 5階 会議室 2月14日(土)  
12:00~17:15

阿部市長、高津区長の挨拶と、関係者紹介に始まり、鏑木功氏(国際協力機構、JICA、ブラジル日系人協会)の「ブラジルと日本移民・日系人」と題する基調講演があり、農業での日本人の勤勉さ、信頼できる民族ゆえに、他民族の人たちの反発、苦労もあることなどが話されました。その後、7区健康の森が活動報告を行いました。

高津区市民健康の森を育てる会からは竹炭焼きの報告があり、その豊富な経験を我々も参考にさせていただきさらに良い炭を作りたいと思いました。

当会からは、初めに2月の会員集合写真と、完成したばかりのジャケットの紹介をし、植樹祭&収穫祭、西生田小学校の総合的学習、里山ボランティア育成講座((財)川崎市公園緑地協会、環境局主催)での間伐の仕方、鋸やロープの使用法の学習、伐採予定の木にコゲラの巣がある事が分って中止してもらい、コゲラの生息を喜んでいる話、プレーパーク(麻生プレーパークを創る会)への協力で子供たちが自分の責任で自由に遊んでいる様子などを、パワーポイントを上映しながら報告しました。

最後は懇親会で締めくくりました。フォーラムの当番は高津区で一廻りし、来期以降はこれから相談して決められます。



市民健康の森フォーラムで披露  
揃いのジャケット、コゲラの巣穴



◆里山フォーラムin麻生 副会長 平林謙三  
2月22日(日)開催。麻生市民館の大講堂の壁は自然を愛し、自然とかかわる様々な団体(18団体)の展示で埋まり、150名を越す人々が集まり、大盛況でした。

里山フォーラム in 麻生は、麻生区と近隣の各箇所でも森や花壇、田や畑で汗を流している様々なグループ・団体の支援と交流の強化を図り、麻生の古い文化(里地・里山文化)を再発見し、それを現代に活かす環境の醸成を目指して活動しています。

麻生区区民協働推進事業の一つ「麻生里地・里山保全推進事業」としても位置づけられています。参加団体は、様々な目標を掲げて多様な活動を繰り広げています。それぞれの活動の目標・ベクトルは少しずつ違いますが、お互いの活動を理解し、助け合うゆるやかな連帯を目指して相互の理解を深める事が大切だと思います。

そうした意味で、今年は、各団体が順番に展示物を前に説明するリレートークを行ったのは良かったと思います。地場産の野菜を使ったカレーライスとサラダも大変美味しかったですね。

また八王子市長池公園自然館副館長の内野秀重さんの里山の生き物と共生しようという基調講演、小野路の里山を守る町田歴環管理組合の田極公市さん、よこはま里山研究所の吉武美保子さん、不耕起栽培で米を作る大蔵の田んぼを育む会の菅原聡さんによるシンポジウムも初めて知ることが多くて、大変勉強になりました。

●里山フォーラム in 麻生の「わたしたちのまちのホッとする風景写真展」で、渡辺昭治会員撮影の写真「麦畑の霜柱」が、ホッと賞を受賞しました。渡辺さんは副賞の図書券で『日本の野鳥図鑑』

を会に寄贈されました。コゲラなど鳥に注目したいとき、有難く活用させていただきます(木村記)。



## 西生田小5年生 森で環境学習

副会長 長澤

麻生区市民健康の森において、西生田小学校5年生160人の環境学習が、12月15(月)3クラス、16日(火)2クラスで実施され、当会会員10名弱が指導に当たりました。

### ① 緑の大切さ 平林副会長の講話 20分

地球の温暖化と、その大きな原因である二酸化炭素の増加などについて、歴史的な見方をまじえながら、緑の大切さや、今後の取り組みなどについて学習した。

### ② 落葉かきして堆肥を作ろう 20分

思い思いに落葉を集めて、大きな穴に入れて踏み固め、米糠・ふすま・土を混ぜて何層にも積み上げた。大半の子供たちは初めての経験で、強い印象が残り、寒さも何処かに行ったようだ。

### ③ 二酸化炭素についての学習、樹木による吸着量の測定 60分

吸着量計算式を説明(20分)。ついで1班8名前後で、樹木3本の幹周を測定し、葉面積×吸着指数=二酸化炭素量kg/年を算出。3本の木が何人分のCO<sub>2</sub>を吸着するかを算出し、感想文を書き環境調査表を完成(40分)。

### ④ 測定結果と感想発表 20分

次のお礼状のように、樹木の働きの大きさに驚き、緑を大切にし、CO<sub>2</sub>削減に努力しようとの気持ちが高まったようである。

#### ◆お礼の便り(紙面の都合上1人だけ紹介)



色々な事をたく山教えてくださいありがとうございます。二酸化炭素の吸収量を計算でだせるなんてはじめて

してした。人に置きかえると予想以上にすってくれているので木を大切にしていきたいと思った。ぼくが木を一本植えるだけで何人分かのCO<sub>2</sub>をすってくれるのでいっぱい植えたいです。ぼくは、家でゴミなどをへらし、むだな電気は消していきたいと思った。

(S・Oくん)

## 平成20年度の活動を顧みて

会長 勝田政吾

当会の目的は、日本人の心の原風景とでもいべき里山景観を育て、近隣に住む人々、訪れる人々に和やかな気持ちになってもらうこと、そのことを通して地域コミュニティと次世代の教育の充実・発展に役立とうとするものです。そのために、当会の活動は、里山の緑を育てること、人々に快適な空間として整備すること、総合的学習など学校教育に協力すること、イベント等を通じ周辺の皆様に関心を高めていただくこと、以上に役立つ産物・作品の提供があります。同時に、楽しく活動が続けられるための交流や、知識向上などを図る催しも欠かせません。

このようなことから、平成20年度を振り返って、まず緑の育成という点では、6年前に植えたクリが3年前から結実し、昨秋は小学生の希望者による採取体験をしました。また、初期の植樹祭で植えた木が成長し密植の害も出始めたので、市の里山ボランティア育成講座にあわせてクヌギ・コナラの間伐をしました。いっぽう、東側進入路の修景のため、(財)都市緑化基金の助成金を利用して、ヤマツツジを中心に植樹をしました。

設備では藤棚の天井格子の竹が7年経って朽ちたので取り換えました。格子の固定は、植木職の技「こぶ結い」の指導を受けて、しっかり結ぶことができました。

畑作業は、草刈りと重なって大変でしたが麦、里芋、さつまいもともに作柄は上々で秋の収穫祭を賑わしました。

小学校への協力も例年通りでしたが、ゆとり教育の見直しで今後が心配されます。校長先生はじめ先生方に頑張っていただきたいものです。また、初めての試みとして市民の自主活動のプレーパークに協力しましたが、ここが単なる広場ではなく冒頭で述べたような大切な緑地であるという基本とどう折り合いを付けていくかが課題だと思います。

楽しみとしては、作業後に定期的に懇親・談話の場をもつことを企画しています。会員各位の積極的作業参加に加え、近隣の方々がふるって入会されることを希望いたします。

## ◆竹炭焼き 大成功

### — 基礎データ収集に再挑戦 大滝恒夫

前年度の測定データを事前に十分検討して、(1)煙突の出口の温度を 80℃で約 5 時間維持すること、(2) 火力を上げるために団扇の代わりに扇風機で送風すること、(3)ロストル上に燃えやすい乾いた竹を置くことの 3 点を試みることにした。

1 月の孟宗竹の伐採から、炭焼き用調製、窯準備等に約 1.5 カ月を要した。前日の夜半まで雨が降っていたが、3 月 7 日の朝は天気にも恵まれ、作業を 9 時に開始した。しかし、前日の雨のため、窯の設置、焚口で燃す材料の乾燥等に時間を要し、準備が全て整ったのは、予定より 2 時間遅れの 12 時であった。

成功を祈りつつ、2 台の窯に勝田会長、平林副会長の手で火が入った。その後、煙突の出口および窯自体の温度を測定・記録したが、何時になっても煙突出口温度が 70℃前後より上がらない。そこで、焚口の燃料を乾燥竹材から、雑木等火力のある材木に切り替えたところ、上がり始めた。

その間に交代で、間野料理長による森の畑産小麦粉の手打ちうどんをいただき、美味しく腹ごしらえができ、作業にも熱が入った。

煙突出口温度が以後一気に両窯とも 130℃～180℃に上昇した。窯の中の竹材が炭化を始めていることが確かであった。

17 時 30 分頃には、煙の色もやや透明化してきたので、焚き口を閉鎖し、煙突を粘土で塞いで窯を密封状態にして、翌日を楽しみに帰宅した（当日の作業参加者は 16 名）。

翌 8 日は 10 時に集り、はやる気持ちを落ち着けながらドラム缶の掘り出し作業の後、焚き口周辺の土を除き焚き口から中を覗いた。2 台とも、手前に燃えた灰があり、「すべて燃えてしまったのか」と不安がよぎったが、ほぼ完璧な竹炭が得られ、成功を全参加者で



喜び合った。数人の見学者からも「素晴らしい」という声が囁かれた。

成功の要因は、冒頭の(2)(3)の方法に加えて、焚口の燃焼に途中から雑木等を使用して火力をあげたことなどが考えられる。なお、竹を割らずに筒状態でドラム缶の中央部に入れたものも全て成功していたので、今後、芸術作品等の製作への利用の道も開けるように思う。また、竹炭の品質上から、原料竹材をさらに吟味することも課題になると感じた。

### ●今後の活動予定 副会長 平林謙三

今年は春の訪れが早く、桜も 3 月中旬に咲き始めた所が多かったようです。新年度を迎えて、不況と呼ばれる世間の停滞感を吹き飛ばし、一層充実した楽しい活動を進めたいものです。今後の活動日程は下記の通りです。

4 月 4 日(土) 樹木の剪定、下草刈り、清掃など

4 月 19 日(日) 樹木の剪定、下草刈り、畑の手入れ、設備の修理、清掃など。

4 月 25 日(土) 第 7 回通常総会  
会場：区役所 4 階第 2 会議室  
時間：午後 3 時半～5 時

5 月 2 日(土) 畑の除草、樹木の下草刈り、清掃など

5 月 16 日(土) 春の観察会 時間：10～12 時、講師：高橋 英さん

5 月 17 日(日) 畑の手入れなど

6 月 6 日(土) 麦刈り、ハザ掛け、畑の掘り起こしなど

6 月 21 日(日) 里芋、さつま芋の植付など

7 月 4 日(土) 麦の脱穀、蕎麦の播種など

7 月 19 日(日) 草刈りなど

この間の補助作業日は 4 月 8、22 日、5 月 13、27 日、6 月 10、24 日、7 月 8、22 日の各水曜日です。

#### ★会員募集中です—貴方も仲間

緑に包まれて森づくり、親子いっしょの作業や自然体験も楽しい。どなたでも加入できます。年会費 1000 円。体験参加も歓迎。上記の活動日において下さい。

#### ◆皆さんの投稿、感想をお寄せ下さい。

問合せ、連絡先

勝田政吾 044-966-7409

木村信夫 044-954-7855

kimura-yatsu@nifty.com